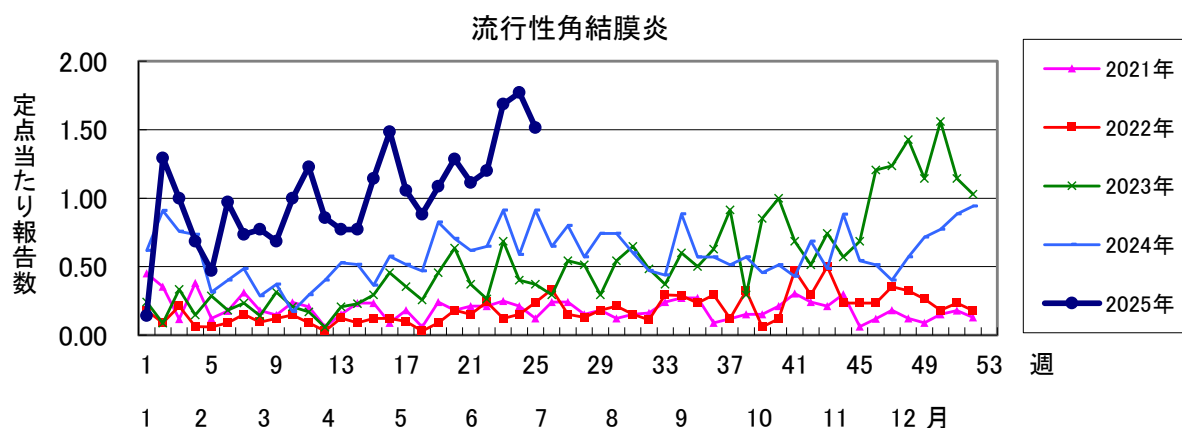


【今週の注目疾患】

《流行性角結膜炎》

2025 年第 25 週に県内の眼科定点医療機関から報告された流行性角結膜炎の定点当たり報告数は、1.51（人）であった。2025 年は直近 5 年間では最も高い水準で推移しており、今後の発生動向に注意が必要である（図 1）。

図 1：2021 年から 2025 年の流行性角結膜炎の定点当たり報告数（2025 年第 25 週現在）



流行性角結膜炎はアデノウイルスによる疾患である¹⁾。約 1 から 2 週間の潜伏期間の後²⁾、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴う¹⁾。感染力が強いので両方の眼が感染しやすいが、初発眼の症状がより強い。角膜に炎症が及ぶと透明度が低下し、混濁は数年に及ぶことがある。新生児や乳幼児では偽膜性結膜炎を起こし、細菌の混合感染で角膜穿孔を起こすことがあるので注意を要する¹⁾。

感染経路は接触感染であり、ウイルスに汚染されたタオルやティッシュペーパー、洗面器に触れるなどして感染する。感染を防ぐためには接触感染予防の徹底が重要であり、こまめに手洗いを実施し、タオルや点眼液など目に接触するものは個人用とする¹⁾。

■引用・参考

1) 国立健康危機管理研究機構：流行性角結膜炎

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ra/ekc/010/ekc.html>

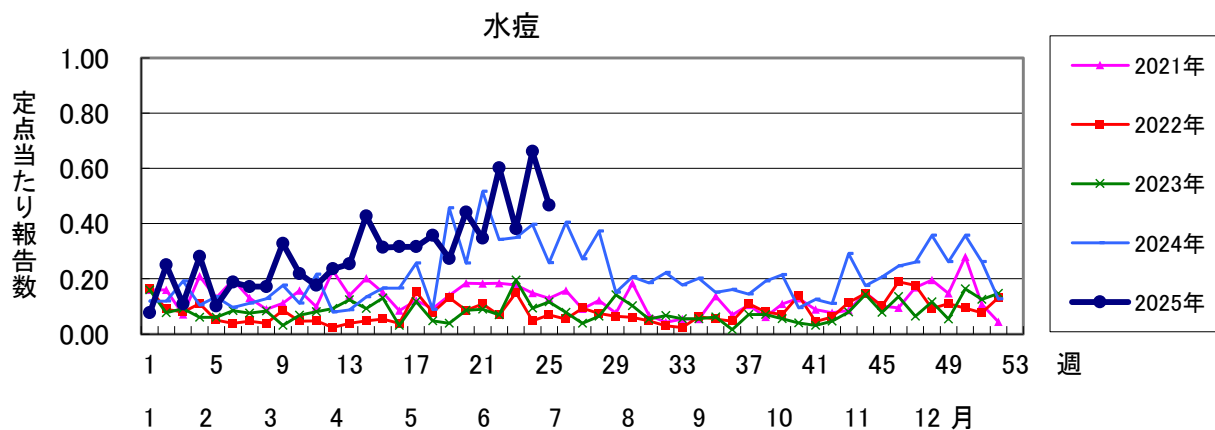
2) 厚生労働省：流行性角結膜炎

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-05-30.html>

《水痘》

2025 年第 25 週に県内の小児科定点医療機関から報告された水痘の定点当たり報告数は、0.47（人）であった。2025 年は直近 5 年間では高い水準で推移しており、今後の発生動向に注意が必要である（図 2）。

図 2：2021 年から 2025 年の水痘の定点当たり報告数（2025 年第 25 週現在）



水痘とは、いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる発疹性の病気である。空気感染、飛沫感染、接触感染により広がり、潜伏期間は感染から 2 週間程度と言われている。発疹出現前から発熱が認められ、典型的な症例では、発疹は皮膚の表面が赤くなることから始まり、水疱、膿疱（粘度のある液体が含まれる水疱）を経て痂皮化して治癒するとされる。

水痘は主に小児の病気で、9 歳以下での発症が 90%以上を占めると言われる。成人の水痘も稀にみられるが、成人が水痘を発症した場合、重症化するリスクが高いと言われている。

水痘の予防接種は 1 回の接種により重症の水痘をほぼ 100%予防でき、2 回の接種により軽症の水痘も含めてその発症を予防できると考えられている。水痘ワクチンの定期接種は、生後 12 月から生後 36 月（1 歳の誕生日の前日から 3 歳の誕生日の前日まで）の間に 2 回の接種を行うこととなっている。

定期接種の対象の方は、接種時期を確認の上、接種をお願いします。

■引用・参考

厚生労働省：水痘ワクチン

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/yobou-sesshu/vaccine/chickenpox/index.html